

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道上士幌高等学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒080-1408

北海道河東郡上士幌町字上士幌東1線227番地

E-mail kamishihoro-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website <http://www.kamishihoro.hokkaido-c.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子90名 女子95名 合計195名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、北十勝にある1学年2クラスの小さな学校です。上士幌町は熱気球で有名な町であり、本校は全国でも珍しい熱気球部があります。恵まれた自然環境の中、多くの活動を通して地域を大切にしようとする心を育てています。

① 学校設定科目「上士幌学」の実施

昨年度より3年生の選択授業において「上士幌学」を設置し、郷土の自然や歴史、食や観光について総合的に学ばせています。この科目は教科横断的なカリキュラムを組み、理科・地歴公民科・家庭科・商業科の先生達が連携して授業を行っています。先生達による授業のほか、町内にいる外部講師による講話や現地視察、地域の食材を活かした特産品開発など、体験的な学習も多く行っています。

② 北海道バルーンフェスティバルへ参加、協力

北海道バルーンフェスティバルは8月に行われる上士幌町を代表する熱気球のイベントです。熱気球部員達は競技への参加を通して、熱気球の魅力や地域の活性化について学びます。また、大会運営のボランティアとして他の部活動の部員達も協力しています。上士幌町や上士幌高校にとって、熱気球をいかに持続発展させていくかということは大きな課題であり、そういった観点からもまさにESDの取り組みだと言えます。写真は2月に行われた上士幌ウィンターバルーンミーティングの様子です。

③ 留辺蘂高校とのユネスコスクール間交流の実施

今年の1月に留辺蘂高校の生徒会のみなさんが本校に来てくれました。お互いのESD活動内容の報告や学校紹介、そして本校で調理実習を行うなど、お互いにとって本当に有意義な時間となりました。

④ 教科横断型「平和学習」の実施（2学年）

本校の見学旅行のテーマは「平和と文化を学ぶ」です。平和学習は教科横断型の事前学習を行っています。国語科では広島や長崎を題材にした小説読解、地歴公民科では戦争が起こった背景や実際の様子などを学びます。こういった学習を行った上で現地を訪れることで、生徒達は戦争の悲惨さ、そして二度と戦争を起してはならないことを強く実感します。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域社会の活性化)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

3年生の選択授業において「上士幌学」を設定し、郷土の自然や歴史、食や観光について総合的に学んでいる。この科目は教科横断的なカリキュラムを組み、理科・地歴科・家庭科・商業科が連携して授業を行っている。本校教員による授業のほか、町内にいる外部講師による講話や現地視察、地域の食材を活かした特産品開発など、体験的な学習も多く行っている。

また、「平和学習」として見学旅行に関連した学習を「総合的な学習の時間」の中で設定している。この学習に関しても国語科・地歴公民科・理科・音楽科で教科横断的に事前学習を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「上士幌学」においては担当者会議を定期的に行い、授業における評価や現在の課題の確認等をおこない、次年度に向けて計画を立てている。また、「平和学習」においては継続的に活動できるように総合学習委員会等で実施上の課題を確認し、次年度の活動につなげている。他の活動においても次年度計画の段階で実施方法や実施時期、担当者体制の見直しをおこなっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評議委員に学校全体の活動の一部として評価していただいた。また、上士幌学の授業を通して上士幌町教育委員会や講師として来ていただいた町内企業の方からも適宜アドバイスをいただいた。地域とのつながりが強まったという面では成果があったといえる評価をいただいた。今後の課題は、地域から求められるものと学校で対応できる範囲に差があるため、学校の限られた授業時間の中でどこまで対応し歩み寄れるかという点になる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

上士幌学活動報告会において、高校生による地域学習のまとめの発表、展示を行い、地域の方々に上士幌の高校生が見たかみしほろの魅力を発信した。生徒達は、地域の各ジャンルのプロフェッショナルから講義・指導を受け、調査・研究活動を通して思考力やプレゼンテーション能力が高まった。さらに高校における地域学習と小中学校でのふるさと教育の連携を重視し、ふるさと教育の体系化に向けた活動へと展開することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

上士幌学に関して上士幌町教育委員会やひがし大雪自然館、町内企業と連携しており、講師の派遣及び校外実習、校内実習、活動報告会などの運営補助に携わっていただいている。また、熱気球部の活動において、町内で開催されるバルーンフェスティバル実行委員会との連携やボランティアとして北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄、帯広大谷短期大学での係留搭乗を通じて交流している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

北海道留辺蘂高等学校と生徒会の交流事業を実施した。調理実習を通じた相互理解の時間を設け、認め合うことの大切さを意識させた。また、両校の生徒会活動の活動報告や学校の特色、ユネスコスクールとして取り組んでいることを紹介し、意見交流及び協議を通じて、両者の課題と成果の共有を図った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

上士幌学を通して地元の方に数多く講演や実習をしていただき、生徒の普段の姿を地元の方に知ってもらう良い機会となった。また、交流する機会が増えたことで学校と地域とのつながりが強くなり、生徒の地域理解も深まった。

留辺蘂高校との生徒会交流によって地域による文化の違いを知り、生徒の相互理解が深まり、認め合うことの大切さを改めて学ぶことができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

2 学年

見学旅行に関連した学習の一環として、「総合的な学習の時間」の中で「平和学習」を予定している。国語科・地歴公民科・理科・音楽科で教科横断的に事前学習を行う。

3 学年

選択授業「上士幌学」の中で、郷土の自然や歴史、食や観光について総合的に学ぶ。地歴公民科・理科・家庭科・商業科で連携し教科横断的に学習する。本校教員による授業のほか、町内にいる外部講師による講話や現地視察、地域の食材を活かした特産品開発など体験的な学習も行う。

熱気球部

上士幌町のシンボルである熱気球の活動を通して、地域行事の参加や、小学生を熱気球に乗せるボランティアなどを行う。